

□発行 公立小野町地方総合病院
〒963-3401 福島県田村郡小野町大字小野新町字槻木内6番地2
TEL(0247)72-3181 FAX(0247)72-3837

透析にならないための闘い

透析を受けている患者さんは現在32万人おり毎年6千人ずつ増えているのが現状です。この現状に対し、医学会全体で透析にならないための戦いが行われております。透析になる原因疾患の第一位が糖尿病性腎症(43.5%)であることから、糖尿病を減らし、合併症である糖尿病性腎症を予防、治療することが透析の患者さんを減らすことにつながるのです。

糖尿病の患者さんの多くは、血糖値やその指標であるHbA1cには注意をしていますが、尿蛋白(アルブミン)となるとほとんど意識しておりません。糖尿病性腎症は症状なく発症し、尿蛋白が出始めて初めてわかる疾患です。尿蛋白が出始めたら、うかうかしてはいられません。透析にならないためにはこの時点で強力に治療をしないと防げないのです。また、腎臓の働きを示す指標としてeGFRが使われます。このeGFRの良し悪しと尿蛋白の排泄量によって治療法が変わってきます。

これらの値に関心を持っていただき、糖尿病性腎症の予防、治療に役立てていただきたいと思います。それが透析にならないための戦いに勝利することと確信しております。



内科非常勤医師 尾澤 康彰

認知症の早期発見と対応

認知症は、主にもの忘れや考える力の低下を主とした疾患ですが、治療を行うことで進行を遅らせたり、症状を改善させたりすることができるようになりました。治療を的確に行うには、何よりもまず早期発見がとても重要です。認知症のもの忘れの症状で初期に症状が現れやすいのは、忘れ物や探し物が増えること、そして約束ごとを忘れてしまうことです。微細な変化に一番気づきやすいのは一緒に暮らしているご家族ですが、ここで重要なのが以前と比べて増えたかどうかです。もしこの1年や半年で急に増えたのなら、それはサインかもしれません。認知症も他の疾患と同様に基本的な生活スタイルがとても大切です。規則正しい生活リズム、栄養バランスのとれた食事、適度な運動はもちろん、楽しんで取り組める趣味があるとなお良いでしょう。認知症にはどうしてもネガティブなイメージが付きものですが、ご自分の、そしてご家族全体としての生活の仕方を見直し、より良くする機会と捉えてみてはいかがでしょうか。

内科非常勤医師
林 茂筆



非常勤医師紹介

当院の小児科診療を担当する非常勤医師、福島県立医科大学付属病院小児腫瘍内科教授 菊田 敦(きくた あつし)医師を紹介いたします。

私は、福島医大の小児腫瘍内科に所属し、地域医療支援として小野町病院で診察を行っています。大学病院では長年、福島県内外の小児がんの患者さんの治療を続けており、皆さまにはあまり馴染みのない骨髄移植などの特殊な治療を行っています。

小児がんの患者さんも風邪をひいたり、発疹が出たり、下痢をしたりしますので、このような場合の治療は小野町病院の外来診療と同じように行います。小児の患者さんを診察する場合は、その患者さんだけを診るのではなく、兄弟家族の状況はどうか確認することが大切です。状況をよく聞くことにより、診察を行わなくてもほぼ診断がつくことも多くあります。小野町病院は大学病院と異なり、余裕をもってゆっくりとした雰囲気の中



で診察ができ、町の健診など健康な赤ちゃんも診させていただいています。医者としての経験は豊富ですので、何でも相談してください。

○ 菊田 敦 医師の診療日、受付時間については当院までお問い合わせ下さい。

診療科紹介

今回は、当院の形成外科を担当する非常勤医師、浅井 笑子(あさい えみこ)医師から「形成外科について」お知らせいたします。

形成外科とは何をするとところなのでしょう。聞き慣れない科で、整形外科との違いがよく分からないという方もいらっしゃると思います。

形成外科は身体の表面の生まれつき(先天異常)、またはけが(外傷)・病気の治療などで後から生じた組織欠損や変形に対して機能や形態を再建し、社会生活への適応を助けることを目的とする外科です。身体の表面の多様な疾患に対し、手術を中心とした治療を行います。具体的には、おでき(皮膚腫瘍)、いぼ(疣贅(ゆうぜい))、巻き爪(陥入爪(かんにゅうそう))や、やけど(熱傷)、顔面骨折を含む外傷や、傷跡(瘢痕(はんこん))の方が日常診療ではよく受診されます。また、術後の変形や顔面神経麻痺のほか、眼瞼下垂(がんけんかすい)(加齢による瞼(まぶた)の皮膚や筋肉の弛緩によって瞼が開きにくくなる病気)、リンパ浮腫などの変性疾患や床ずれ(褥瘡(じょくそう))などのなかなか治らない傷(難治性創傷(なんじせいそうしょう))に対する治療も行います。その他、保険診療外ではありますが、美容的な相談なども扱っています。

身体の表面は紫外線や、摩擦、圧力などの物理的刺激を受けやすい場所であり、当初は不具合のなかった皮膚腫瘍が徐々に悪性化する危険性があります。特にジクジクしてなかなか治らないなどといった場合は注意が必要です。

形成外科は別名life creative surgery(ライフクリエイティブサージャリー)と称されることがあります。直訳すれば、生活を創造する外科。身体の表面の何か困っていることについて、その人その人の生活スタイルに応じた治療を行い援助していきます。みなさんも何か気がかりなことがありましたら、お気軽にご相談ください。



形成外科 浅井笑子 医師の診療日、受付時間については当院までお問い合わせ下さい。

高血圧について

平成26年の調査によると高血圧性疾患の総患者数は1010万8000人と報告されています。高血圧症は自覚症状に乏しく、「ありきたりな病気」と認識され、そのまま放置されてしまうことも少なくありません。しかしながら、脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など)、心臓病(冠動脈疾患、心肥大、心不全など)、腎臓病(腎硬化症など)および大血管疾患の強力な原因疾患であり、早めの診断、適切な治療を必要とする疾患です。「高血圧治療ガイドライン2014」では「診察室血圧と家庭血圧の間に診断の差がある場合、家庭血圧を優先する。」と記載され、家で測定した血圧が重要視されるようになりました。血圧は様々な要因で変動するため、下記のような測定方法が推奨されています。

1. 測定位置：上腕部(二の腕)
2. 測定時の条件
 - 朝：起床後1時間以内、排尿後、服薬前、
1、2分座って安静にした後
 - 夜：就寝前、1、2分座って安静にした後
3. 測定回数：1機会に2回測定して平均値をとる。



内科非常勤医師 柳田拓実

血圧測定は正しい測定を継続して行い、その結果に基づいた診断・治療を続けることが大切です。治療は、減塩(1日6g未満)、禁煙、適度な運動、減量などの生活改善と薬物療法が基本となります。家庭で135/85mmHgを超える血圧が続く場合は当院までご相談ください。

平成27年度の決算状況について

平成27年度は、県より派遣いただいた2名の常勤医師の増員に伴い入院患者・外来患者数ともに増加となり、また、環境改善加算なども加わり医業収益は大幅な増収となりました。支出面においては、旧病院建物の解体工事費や患者送迎バスルートの拡充経費、患者数増加に伴う薬品などの材料費も増加となったため、決算状況は、収入総額2,292,106千円に対し支出が2,278,711千円となり収支差引で13,395千円の黒字決算となりました。

年度	収入	支出	収支差引
平成25年度	1,727,756千円	1,612,304千円	115,452千円
平成26年度	1,803,642千円	2,890,231千円	△1,086,589千円
平成27年度	2,292,106千円	2,278,711千円	13,395千円

※平成26年度の決算状況については、旧病院建物等の資産の除却などを行い、1,101,459千円の特別損失を計上したため、赤字決算となりました。